

市の木・花

市の木：マツ

市の花（四季の花）：ツツジ（春）・サルビア（夏）・
キク（秋）・スイセン（冬）

【市の木の選定理由】

検討委員会では、市の木は、古くからこの地域に広く自生、あるいは植栽されている樹木が最適であろうという考え方により、アカマツ・クロマツを含む総称としての「マツ」が選定されました。

マツは、現在の市全域に生育しており、庭木や盆栽としても広く愛されてきました。市内には、神社・仏閣、街道筋などに多く見られ、県内有数の名木もあります。また、公園や公共施設などにも数多く植栽されています。

【市の花の選定理由】

市の花は、一つに限定せず長い期間にわたり楽しめるよう複数あってもいいのではないかという考え方に基づき検討されました。その上で、旧市町村の花もそれぞれの経過を経て地区の人々に親しまれている状況も考慮されました。

そのような中、開花時期が注目されました。ツツジは春、サルビアは夏から秋、キクは秋、スイセンは冬から春にかけて咲き、四つの花を合わせれば四季折々に花を楽しむことができます。

そこで、四つの市町村が合併して一つの新しい伊勢崎市を創り上げる象徴として、一年中を花で飾れる「四季の花」という思いを込め、四つの花が選定されました。

*マ ツ

「マツ科マツ属」の針葉樹で、クロマツ、アカマツのほかいくつかの種類があります。常緑樹で冬も緑を茂らせ、若さや不老長寿の象徴とされ、「梅」「竹」と合わせておめでたい木とされています。能や狂言の舞台には背景として必ず描かれており、歌舞伎でも多くの演目で描かれるなど、日本の文化を象徴する木でもあります。

華蔵寺公園や赤堀いこいの森公園のマツの群生する美観はすばらしく、連取町菅原神社の笠松やあずま中学校校庭の梨本宮殿下お手植えのマツなど、県内有数の名木や歴史を持った木が存在しています。



連取の笠松

梨本宮殿下お手植えの松(あずま中学校)



境一本松稲荷



赤堀いこいの森公園

*ツツジ

「ツツジ科ツツジ属」の植物で、観賞用として公園や道路の分離帯などの植え込みに植栽されている常緑または落葉低木の通称です。花期は春で、伊勢崎市の四季の花として、春の花に選定されました。華蔵寺公園では、4月中旬から5月中旬にかけて、霧島ツツジを中心に約30種類5000本が咲き乱れ、関東有数のツツジの名所となっています。



華蔵寺公園

*サルビア

「シソ科アキギリ属」の一年草低草木で、園芸品種が多く、花壇などに植えられ長期間咲き続けます。花期は夏から秋にかけてで、伊勢崎市の四季の花として、夏の花に選定されました。市内では、家庭の庭先から、道路や河川の端、公園など、いたるところに市民やボランティアの方々によって植えられています。



天幕城址（磯町）

*キク

「キク科キク属」の植物で、キクといえばイエギク（栽培ギク）を指します。園芸植物の多年草で、旧暦9月9日の重陽の節句は「菊の節句」と呼ばれているように花期は秋で、日本の秋を象徴する花となっています。伊勢崎市の四季の花として、秋の花に選定されました。キクは、大菊の3本仕立てや小菊の懸崖作りなど、古くから親しまれ、華蔵寺公園では毎年菊花展が開催されます。また、新しいキクの名所となったあかぼり小菊の里には、約2万株の色とりどりの花が咲き、大勢の観光客で賑わいます。



小菊の里（磯町）

*スイセン

「彼岸花科スイセン属」の多年草で、スイセン属に含まれるものを総称してスイセンと呼んでいます。スイセンは日本の気候と相性がよく、栽培も比較的簡単です。花期は冬から春にかけてで、伊勢崎市の四季の花として、冬の花に選定されました。市内では、栽培が比較的事業なことから、鉢植えや庭先など、多くの市民に親しまれています。



境支所